

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【めざす学校像】

校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校  
将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校  
生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

## 【生徒に育みたい力】

強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性  
確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）  
生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）  
豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）  
社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

## (1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

## ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領について 2022 年度からの実施に向け教育課程の検討を進め、2020 年度中に教育課程を編成する

また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、H31 年度中に「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざした「高津授業メソッド」を完成させ、2020 年度以降につなげる

\* 生徒向け授業アンケートの項目 8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H30：3.23 / 4 点満点）を H31 年度以降も 3.2 以上で維持する

## イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

\* 難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生 + 既卒生 / H30：68 人、東京大を含む）を、2020 年度までに 80 人以上とし、一層の増加に努める

\* 国公立大学への現役生の合格者数（H30：130 人）を、2020 年度まで 130 人以上で維持し続ける

## ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

\* 12 月実施予定の第 2 回 GTEC スコアレポートにおいて、2021 年度までに CEFR B1：100 人以上をめざす

\* KITEC（ネイティブスピーカーの方を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を 2021 年度まで継続し、KITEC を通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合を 98% 以上で維持し続ける

## (2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

## ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

\* 2 年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（H30：約 720 人）を、2021 年度まで 700 人以上で維持する

## イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

\* 文理学科 1・2 年生の外部連携事業への延べ参加者数（H30：約 1543 人）を、2021 年度まで 1,000 人以上で維持し続ける

## ウ 海外の科学先進校等との交流の推進

海外の科学先進校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

\* 交流日数（H30 年度：5 日）について、2021 年度まで 4 日以上で維持し続ける

## (3) 進路指導をさらに充実させる

## ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1 年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2 年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

\* 1・2 年生とも訪問先（H30：1 年生 63 カ所、2 年生 49 カ所）を、2021 年度まで各 50 カ所以上、生徒満足度（H30：95%）を 90% 以上で維持し続ける

## イ 3 年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

\* 学校教育自己診断の進路指導への満足度（H30：生徒 80%・保護者 81%）を、2021 年度までにともに 80% 以上で維持する

## 2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

## (1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

\* 学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H30：生徒 82% 保護者 82%）を、2021 年度までに、ともに 85% 以上に引きあげる

\* 部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H30：100%）を、2021 年度まで 90% 以上で維持し続ける

## (2) 規律・規範意識の向上

\* 年間の遅刻者総数（H30：2,041 件）を、2021 年度まで 2,000 件以下で維持し続ける

## (3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

\* 部活動加入率（H30：86%）を、2021 年度まで 85% 以上で維持し、一層の増加に努める

\* 生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H30：64%）を、2021 年度までに 70% 以上に引きあげる

## (4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

\* 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く / H30：84%）を、2021 年度まで 80% 以上で維持し、一層の向上に努める

## 3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

## (1) 教科指導力の向上

\* 生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H30：3.23 / 4 点満点）を、2021 年度まで 3.2 以上で維持し続ける

## (2) 研修の充実

\* 教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H30：90%）を、2021 年度まで 80% 以上で維持し続ける

## (3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

\* 教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H30：80%）を、2021 年度まで 75% 以上で維持し続ける

## (4) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

\* 教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H30：80%）を、2021 年度までに 75% 以上で維持し続ける

## (5) ICT 活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実

\* 生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用に対する満足度（H30：90%）を、2021 年度まで 90% 以上で維持し続ける

## (6) 地域に開かれた学校づくりの推進

\* 生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

## (7) 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上

\* 教職員向け学校教育自己診断の「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」についての肯定率（H30：85％）を、2021年度まで80％以上で維持する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>経年変化を確認する観点から、今年度も、肯定率80％以上（ ）ならびに60％未満（×）の主な項目と認識、今後の課題を記します。</p> <p><b>【学習指導等】</b>  <b>生徒【80％以上】</b>  「本校の授業はわかりやすい」80％  「授業には、ICT機器が積極的に取り入れられている」94％  「学習に対する評価は適切で納得できる」83％  <b>保護者【80％以上】</b>  「学習に対する評価は適切で納得できる」84％  「講習や補習は、子どもの学力向上や希望進路の実現に役立っている」84％  <b>教職員【80％以上】</b>  「授業では主体的・対話的で深い学び等、さらなる向上をめざしている」90％  「授業において生徒自身が自分の考えを発表したりまとめる機会が多い」82％  「本校のカリキュラムは、生徒の進路希望等に応じたものとなっている」95％  「講習や補習は、子どもの学力向上や希望進路の実現に役立っている」80％  *今年度も、ほとんどの項目で高い評価をいただきました。とりわけ、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」については、生徒・教職員ともに肯定的な回答がますます増えています。引き続き、さらなる授業力の向上、より適切なカリキュラムの構築に努めます。</p> <p><b>【進路指導等】</b>  <b>生徒【80％以上】</b>  「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」85％  「教職員は生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」88％  <b>保護者【80％以上】</b>  「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」81％  <b>教職員【80％以上】</b>  「将来の生き方や進路を考える機会を数多く提供している」89％  *進路指導についても、すべての項目で、継続的に高い評価をいただきました。生徒の希望進路実現に向けて、さらに戦略的・効率的な支援に努めます。</p> <p><b>【生徒指導等】</b>  <b>生徒【80％以上】</b>  「人権を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」85％  「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」84％  <b>保護者【80％以上】</b>  「学校の生徒指導方針に共感できる」83％  「人権を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」82％  <b>教職員【80％以上】</b>  「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」84％  「生徒や保護者が、必要に応じて、気軽に相談できる環境が整っている」85％  *生徒指導等についても、昨年度とほぼ同じように高い評価をいただきました。引き続き、高津らしい生徒指導を進めていきたいと考えています。</p> <p><b>【学校運営等】</b>  <b>生徒【80％以上】</b>  「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」90％  「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」91％  <b>保護者【80％以上】</b>  「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」90％  「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」88％  「学校は教育情報について保護者に提供の努力をしている」85％  <b>教職員【80％以上】</b>  「本校の教育活動は、学校経営計画等に基づき、適切に行われている」94％  「保護者と緊密に連携し、信頼感が醸成されている」89％  「本校の教育活動を積極的にアピールできている」97％  *今年度も、学校運営全般に関して、共感を伴う高い評価をいただきました。教職員の取組み等をしっかりと見守っていただいていることや、相互の信頼感が再確認でき、本当に嬉しい限りです。より一層の向上に努めます。</p> <p><b>【その他】</b>  <b>生徒【80％以上】【60％未満】</b>  「高津高校に入学してよかった」89％  ×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」49％  <b>保護者【80％以上】【60％未満】</b>  「高津高校に入学させてよかった」94％  「本校の授業参観や学校行事に参加したことがある」89％  ×「本校はいじめについて真剣な対応を期待できる」58％（わからないが37％）  ×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」59％  <b>教職員【80％以上】【60％未満】</b>  「生徒の個人情報適切に守られている」90％  「各分掌や学年・教科が連携し、組織的に機能の向上に取り組んでいる」81％  「経験の少ない教員や次世代リーダーを計画的に育成している」82％  「教育活動の悩みや疑問について、互いに気軽に相談できる職場である」85％  「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応できる」89％  ×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」53％</p>	<p><b>第1回（7/12）</b>  <b>【学校経営計画について】</b>  ・学校経営計画の中には、難関国立大学への進学者数のように「上昇させる」ことを目標にしている項目と、課題研究発表会のように「維持する」ことが目的となっているものが、バランス良く並んでいるのはメリハリがあって良いと思う。  ・大学進学実績の数値目標の達成プロセスにおいて、民間の全国規模の模擬試験や学校の実力テストを適切に活用してもらいたい。  ・大学研究室訪問で大阪教育大学に来た生徒複数名が実際に受験し、生き生きとした学生生活を送っている。大学研究室訪問は、高校生にとっても研究室の大学生にとっても、プラスとなる行事となっている。</p> <p><b>【「働き方改革」について】</b>  ・高津高校では多様な取組みがなされているが、同時に働き方改革が求められている今、保護者や同窓会にできる支援について、できる範囲で協力したいと考えている。  ・同窓会は今後も資金面での支援を存続していくが、資金以外にも知恵・経験・人脈などのリソースを持っており、現役生に活用してほしい。</p> <p><b>第2回（12/19）</b>  <b>【創造探究事業について】</b>  ・協議会委員が関わる団体の企画やテーマ設定などに、高津の教員の知恵を借りたい。また、地域支援などの分野についても。そして、実施される企画・行事などを「創造探究事業」に加えてもらえれば。  <b>【国際交流等について】</b>  ・大学などではさまざまな発表・プレゼンテーションにおいて、英語での発表を行っている。高校でも是非やってみてはどうか。  ・国際交流センターに国費留学の学生たちが集まっている。その学生たちと交流してみてもどうか。高津の立地は、ある意味でさまざまな「語学環境」に恵まれている。それを積極的に活用してみてもどうか。  <b>【体験型進路学習について】</b>  ・体験型進路学習の職場訪問について、生徒たちがどんな職種・職場に興味があるか、訪問の希望があるかを、事前に聞いてみてほしい。それをもとに紹介先を探すことができると、効率がよく効果も上がると考える。</p> <p><b>第3回（3/23）</b>  新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、第3回学校運営協議会については、メールにより意見等を聴取する形式で行った。上記の3月23日はメールによる意見等の聴取が終了した日である。</p> <p><b>【平成31年度学校経営計画及び学校評価について】</b>  ・「学校教育自己診断」の結果では、多くの重要な指標が肯定率80％以上であり、全体として適切な学校経営がなされていると言える。  ・トイレへの改善策については、資金をかけて改装することだけを考えるのではなく、改善策の策定や実施について、生徒の参加も促し、自分たちで出来ることが何かを考え、実行する機会とすることも、教育上の意義があると思われる。  ・目標として、京・阪・神の合格者人数があげられているが、学校アピールの際に、希少な学校へ行った生徒のこともアピールに入れたほうが、高津の特色を表現できる可能性はある。例えば、外国の大学や専門の大学（音楽・美術・工芸）など。  ・課題研究の学習スタイルによって培われる能力は大きいと感じた。専門指導ができるアドバイザーをもっと同窓生から募集したいと思う。  ・体験型進路学習の職場訪問について、多職種にわたる卒業生を持つ同窓会も協力し、多くの業種の中からセレクトするのも良いのではないかと。</p> <p><b>【令和2年度学校経営計画及び学校評価について】</b>  ・KITECを通して「英語に対する興味・関心、運用能力が向上した」と回答した生徒の割合について、R2年度も引き続き98％以上を目指されとのこと、是非頑張ってください。  ・文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数が順調に増えており、R4年度まで1500人以上で維持し続けるとのこと、本校にふさわしい目標であるので、達成を期待する。  ・「生徒の自主的活動の活性化」について、「生徒の自治会活動に対する肯定率」が過去3年間60％台となっているが、R3年度までに70％の突破を目指すとの目標設定には、新しい工夫を期待したい。  ・「研修の充実」について、「教員の校内研修に関する肯定率」がH30年度に比べて10ポイント低下し、79％になっている点が気になった。研修のより一層の工夫を期待したい。  ・令和2年度学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」については承認する。</p>

<p>*今年度も、生徒・保護者ともに「高津高校に入学して(させて)よかった」という回答が安定して高水準でした。一方で、トイレ改修を一部行いましたが、トイレ等の環境面は、引き続き低い評価となりました。さらにトイレ改修を行うなど、望ましい学習環境の維持に努めます。また、保護者のいじめ対応の期待面では、「わからない」という回答が37%を占め、肯定率が58%となりました。いじめを許さない等の人権尊重の教育については、これからも推進してまいります。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力をふまえて、高い志をばぐみ、進路実現をめざす取組み</p>	<p>(1)生徒のもつ学力を最大限引き出す ア・魅力ある授業の実施「高津授業メソッド」づくり (STAGE 3) イ・英語運用能力 (4技能)の向上</p> <p>(2)海外の科学先端校等との交流促進 ア・交流対象校との交流内容の充実</p> <p>(3)進路指導をさらに充実させる ア・体験型進路学習の一層の充実</p>	<p>(1) ア・新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、平成29年度に立ちあげた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立を可能とする「高津授業メソッド」の確立をめざし、担当部署を中心に具体的な取組みを推進する。(発展) イ・1・2年生を対象に、GTECの受験を促進する。(充実) KITECを実施し、英語会話能力の向上をめざす。(継続・発展)</p> <p>(2) ア・交流対象校と交流内容の充実を図るとともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。(充実)</p> <p>(3) ア・総合的な学習の時間を活用し、7月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。(継続・発展) 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」</p>	<p>(1) ア・教員向け学校教育自己診断の「高津授業メソッドの推進状況」に関する項目の肯定率(H30:86%)を90%以上とする。 イ・12月実施予定の第2回GTECスコアレポートにおいて、CEFR B1:80人以上をめざす。また、KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合を98%以上で維持する。</p> <p>(2) ア・交流日数(H30:5日)について4日以上で維持し続けるとともに、参加生徒の満足度(H30:100%)を90%以上で維持する。</p> <p>(3) ア・生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度(H30:95%)を90%以上で維持する。</p>	<p>(1) ア・評価指標とした「高津授業メソッド」の進捗状況についての肯定率は90%。新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、さらに深化させていきたい。( ) イ・1・2年生を対象に、年2回GTECを実施した。評価指標とした12月実施の第2回GTECにおいて、CEFR B1:122人(受験者648人)、KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合は98%。( )</p> <p>(2) ア・JST さくらサイエンスプランおよび台湾サイエンスツアーで交流日数は8日。参加生徒の満足度も100%であった。( )</p> <p>(3) ア・評価指標とした「体験型進路学習の満足度」は96%と、今年も設定目標を上回った。今後も、内容面のさらなる充実に努めたい。( )</p>
<p>2 豊かな心をはぐみ、規律・規範の確立</p>	<p>(2) 規律・規範意識の向上 ア・基本的生活習慣の定着</p> <p>(3) 生徒の自主活動の活性化 ア・生徒自治会活動のさらなる活性化</p> <p>(4) ア・保健室利用、教育相談体制の充実</p>	<p>(2) ア・教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む(継続)</p> <p>(3) ア・記念祭(文化祭・体育祭の一括実施)等の行事に関して、引き続き、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を整理し、新たな伝統創生をさらに進めることで、本校ならではの自治会活動のさらなる活性化を図る。(継続・充実)</p> <p>(4) ア・支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>(2) ア・遅刻者数(H30:2,041件)を2,000件以下にする。</p> <p>(3) ア・行事後の生徒の満足度(文化祭・体育祭の平均 H30:97%)を95%以上で維持する。 ・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率(H30:64%)を70%以上にする。</p> <p>(4) ア・生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H30:84%)、保護者の学校への相談に対する満足度(H30:84%)を、ともに80%以上で維持する。</p>	<p>(2) ア・遅刻者数は、2,128件と目標は達成できなかった。引き続き、重点項目として取り組みたい。( )</p> <p>(3) ア・記念祭後の生徒満足度は97%と、引き続き目標を達成した。さらに活気あふれる行事としたい。( ) ・「自治会活動に対する肯定率」は、68%と目標に近づいた。引き続き、重点項目として、生徒自治会の更なる活性化を図っていきたい。( )</p> <p>(4) ア・評価指標とした「保健室利用、教育相談に対する満足度」は86%、「学校への相談に対する満足度」は86%と、ともに目標を達成できた。( )</p>
<p>3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立</p>	<p>(1)教科指導力の向上 ア・教科指導力の向上</p> <p>(3)ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上</p> <p>(7)安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1) ア・教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(継続・充実) ・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続)</p> <p>(3) ア・より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(継続・充実)</p> <p>(7) ア・「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。(継続・充実)</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケート1~9全質問の平均値(H30:3.26)を3.2以上で維持し、さらなる向上に努める。</p> <p>(3) ア・教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率(H30:82%)を75%以上で維持する。</p> <p>(7) ア・教職員向け学校教育自己診断における「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率(H30:87%)を80%以上で維持する。</p>	<p>(1) ア・生徒授業アンケート結果は3.34と評価指標を達成できた。「主体的・対話的で深い学び」の構築に、引き続き、努めていく。( )</p> <p>(3) ア・評価指標とした「ミドルリーダーの育成」については、82%と目標を達成できた。引き続き、次代を担う教員の育成に努める。( )</p> <p>(7) ア・評価指標とした「気軽な相談」については、85%と目標を大きく上回ることができた。さらに教職員の負担感の軽減に努める。( )</p>